

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	敦賀市立子ども発達支援センター パラレル 保育所等訪問支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日		～ 令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	76	(回答者数) 68
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日		～ 令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年12月15日		～ 令和8年1月16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 31
○事業者向け自己評価表作成日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員自身が、延長の経験等で園との連携が取りやすい。学校ともつながりを大切にしながらすすめたい。	各保育園、学校の訪問の時に関係機関の情報や家庭状況も視野に入れて取り組んでいる。	パラレルの様子を的確に伝えられるように、現場職員とも情報共有していきたい。
2	就学や引継ぎに関し、特性把握を含め配慮の必要性に視点を定め、移行を大切にしている。	家庭環境に関しても、支援が必要なならば、関係機関や医療機関とも連携している。	学校のステージが上がると課題も変わってくるので、先の見通しという点での話し合いも必要である。
3			

	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問が、事業所により異なる方法で学校も戸惑いがある。説明が必要。	行事が重なる場合があり、訪問員だけでなく、訪問できる工夫が必要。
2	要対協の家庭への支援は必要だが、連携機関が少ない。	学校の現場では、新任教員が訪問を知らないことが多いので説明が必要。
3		